

小中高一貫教育総会で卒業生の小林朋子さんが発表しました

4月25日（月）、淨るりシアター小ホールにおいて、恒例の能勢町小中高一貫教育総会が行われました。この総会は、本校と能勢町内の小学校、中学校の全教員が集まり、今年度の一貫教育の取組み等について確認するとともに、教員間の交流を通じ、相互の理解を深めるものとして行われています。

また、この春本校を卒業した生徒に高校時代の思い出や能勢高校の魅力などについて話をしてもらうことにより、小中高一貫教育の大きな成果として共有するものとしています。今回は、歌垣小学校・東中学校出身の姫路独協大学医療保健学部1回生の小林朋子さんと久佐々小学校・西中学校出身の和歌山大学観光学部1回生の松田桃子さんをお願いしました。

小林さんは、中学生の時、学校を休みがちのところ、養護教諭の先生に励まされ、高校（能勢高校）に進学することができたこと。高校では、大学進学への焦りと自信のなさなどから、心が不安定になった時、保健室で先生方から優しく見守ってもらえたこと。このような先生方との出会いから、将来、自ら子どもたちを支え、励ましてあげることができるよう、養護教諭をめざし大学に進学したことについて力強く話してくれました。

また、松田さんは、都合により、会場に来て発表することができませんでしたので、事前に書いた原稿を代読してもらいました。「農業クラブの意見発表会、生徒会や学校行事に積極的に参加できた経験を通じ、能勢高校の田舎の少人数制の学校というマイナスイメージすべてが本当はプラスの要素であったことや、能勢高校だからできることがたくさんあることに気付いたこと。」がしっかりと伝わってきました。さらに、特別にお越しいただいた松田さんのお父さんからは、子どもの希望をかなえてくれた、能勢高校の先生方は、まさに職人であるとの賞賛の言葉をもらいました。

2人の卒業生の発表を通じ、小中高一貫教育の成果を確認するとともに、小中高一貫教育の最終段階でもある本校の責任の大きさをあらためて感じました。



発表中の小林朋子さん